



TITLE:

公開シンポジウム「中韓日シンポジウム アジアにおけるPISA問題」 2011年度: 韓国におけるPISA問題

AUTHOR(S):

CITATION:

公開シンポジウム「中韓日シンポジウム アジアにおけるPISA問題」 2011年度: 韓国におけるPISA問題. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書 (2007-2011年度): 391-414

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179655>

RIGHT:

韓国における PISA 問題

白 淳根（ソウル大学入学本部長・教育学科教授）

通訳・趙 卿我（京都大学大学院教育学研究科・助教）

スライド 1～3

お手元の資料をご覧ください。皆さんこんにちは。ソウル大学の白です。韓国が PISA 調査で上位の成績を維持している背景について、今日はお話したいと思います。

スライド 4

手元の資料は少し間違っていますが、韓国の進学率は世界一の水準です。最近、初中等教育の強化、未来社会に対応できる創造的な人材育成を重視しています。

スライド 5

初等中等教育の質保障を行い、基礎学力向上を目指しています。そして、PISA 調査や IEA の TIMSS 調査においても継続的に上位を示しています。以下では PISA2002 以降の PISA 結果を整理しながら、PISA 調査の結果に影響を与えた、教育科学技術部の教育政策を紹介します。

スライド 6

読解リテラシーは、2000 年では 6 位、2003 年では 2 位、2006 年には 1 位を示しており、数学的リテラシーでも PISA2000 から継続的に上位を示しています。科学的リテラシーでも PISA2000 では 1 位でしたが、PISA2006 では 5 位から 9 位に下落したものの、PISA2009 では 2 位から 4 位に順位が上がっています。

スライド 7

そして PISA 結果だけでなく、IEA の TIMSS の結果でも、数学でも科学でも良い順位を示しています。これは 10 年間続いています。

スライド 8

それでは領域別に分析してみます。読解力では、OECD 加盟国の中で 1 位から 2 位を示しています。2009 年は PISA 参加国中トップです。このような結果の背景としては、国家レベルのプログラムによって読書教育を特に強化しています。

スライド 9

学校生活記録簿は日本の通知表に該当するものですが、その中に読書に関する活動状況などを記録しています。

スライド 10・11

学校生活記録簿は全国統一の形式です。また韓国では、国民は住民登録番号を持っていま

すが、この番号をインターネット上で入力すれば、学校生活記録簿に記されている活動状況や、読書への興味をすべて把握することができます。これは中学校だけではなく、高校でも同じシステムです。

スライド 1 2

大学入試では論述考查を実施しており、読むことだけではなく書くことにも関心が高いです。

スライド 1 3

次は数学リテラシーについてお話します。OECD 加盟国中、1～2位を示しています。数学から PISA2000 からずっと上位を示しているのは、国家政策として力を入れているからです。

スライド 1 4

スライド 14 で示している 2011、12 年度の入試の部分を見ると、数学で微分・積分・統計の基本などを教えています。

スライド 1 5

スライド 1 5 の表にあるように、英語には約 8 万ウォンの私教育費が支出されています。しかし、私教育を受ける割合が一番高いのは数学の 53.6 パーセントです。

スライド 1 6

次は科学リテラシーです。2000 では 1 位でしたが、2006 では 5 位から 9 位に下落し、2009 では 2～4 位です。

スライド 1 7

このように PISA2006 で科学リテラシーが下落した原因として、次の三つを挙げることができます。まず一点目は、7 次教育課程における選択型教育の導入です。これによって、難しい科目を避けるような状況がありました。また二点目として、大学入試において必ずしも科学を受験することが必要ではない状況がありました。三点目として、かつての入試における暗記重視や点数重視から、最近では実験能力や発表能力を重視するようになっってきたことが挙げられます。

スライド 1 8

2009 年では科学リテラシーが改善していますが、この背景には、小・中・高における科学教育の質保証の教育課程改革があります。2012 年まで、実験に関する評価の比率を 50%まで拡大して、評価方法の改善、実験探究学習を開発して普及しています。そして何より科学教師の専門性を評価して、科学の実験学習、模擬授業、教育研修などを行いました。そして学校の中で実験室を現代化して、有志の学生に対する科学クラスの運営など、教育環境改善を行ってきました。

スライド 19

また、2009年に改訂された教育課程では、創造的な体験学習の推進と運営をしています。スライドの絵をご覧ください。たとえばボランティア活動、進学活動、クラブ活動、自由探究活動などを、国家が教育政策として行っています。

スライド 20

このように 2000 年以降韓国が上位成績を維持しているのは、次のような教育政策推進によります。たとえば、先進地域国家建設のために、国家ビジョンの教育目標、教育内容、教育方法、教育評価を管理しています。

スライド 21

それでは、目標、内容、方法、評価についてみていきます。まず教育目標です。2009 年改訂教育課程で追求されているのは、世界水準の創造的な人材育成です。この教育目標からは、自立的な学習能力、創造的な問題解決能力を育成することが求められています。

スライド 22

特にグローバル世界における、創造性、キーコンピテンシー、国際競争力をそなえた人材育成に力を入れています。

スライド 23

次は教育内容です。教育課程の先進化を目標として、創造性、人格教育が可能な新しい教育課程を運営しています。そして、教育力を高める授業を行っており、教科書の先進化を求めています。

スライド 24

そして創造性・人格教育の可能な新しい教育課程を運営しています。

スライド 25

教育力を高めるために、多様で特性化された教育を提供し、教育力を改善して、学生のレベルに合わせた水準別教育を提供しています。たとえばスライド 25 をご覧ください。科目選択範囲を拡大し、基礎および発展課程を提供しています。そして、評価制度改善を行っています。

スライド 26

スライド 26 ご覧ください。従来の教育課程では、普通と専門で分けていましたが、改訂後は、基本、一般、発展で分けて「水準別教育」を行っています。

スライド 27

そして、教科書の先進化も追求しています。たとえば、創造性、真正性の高い知識を提供

する学習者中心の教科書を普及させています。

スライド 28

教育方法では、教授学習方法の先進化を図っています。たとえば教師の専門性を高めるための努力、教科教室制の運営、創造性、人格教育の実行などを行っています。

スライド 29

教員の専門性向上のために、スライド 29 のような評価を行っています。評価方法としては、同僚による評価、生徒による評価、保護者による評価などを行っています。教員だけではなく、学生、保護者、教頭、校長まで評価に参加しています。

スライド 30

2010 年現在、修士学位取得率は、中学校では 33.7%、高校では 35%であり、博士学位取得率は、中学校は 0.8%、高校は 1.8%です。

スライド 31

多様な研修も行っています。特に、優秀教員に対する学習研究年制度を推進しています。

スライド 32

師範大学から教員養成大学まで、教員養成機関の評価認定制も実行しています。

スライド 33

教科教室制も運営しています。学生たちは、教科別に分けられた専門教室に移動して授業を受けます。学生中心の授業方針です。

スライド 34

創造性、人格教育の実施のため、教科ごとの多様な授業方法を行っています。たとえば発展・探究学習やロールプレイング、チームプロジェクトなどです。そこでは、2〜3 時間をまとめて授業することで、多様な形態の授業を実現しています。

スライド 35

さらに、国家が EPOD というシステムを運営しています。学生が、放課後にボランティアや読書活動などを自分で管理して行うシステムです。

スライド 36

EPOD のメニューでは、自立活動、放課後学校生活、進路活動、読書活動、クラブ活動、ボランティア活動などを分けています。そこでは、学生が学校内外で参加した様々な非教科活動を自ら管理して、自分のポートフォリオ作ります。これは、住民登録番号によって、それぞれがどのような活動を行っているのかをいつでもチェックできます。

スライド 3 7

教育評価では、基礎学力の保証と創造性向上のため、次のような評価を行っています。パフォーマンス評価の実施、国内学力調査の実施、2012 年入試改革、入学査定官制などです。

スライド 3 8

パフォーマンス評価は 90 年代から研究が始まり、13 年間行われています。パフォーマンス評価は、パフォーマンス課題を遂行する過程や、その結果を観察し、学生の知識、技能、態度などを評価する専門的な評価方針です。

スライド 3 9

知識情報化時代における思考の多様化・創造性を高めるため、また、理解や解答に至るまでの複雑なスキルなど、デジタル化してはかることの難しい高次の思考能力を測るため、パフォーマンス評価は必要不可欠です。

スライド 4 0

パフォーマンス評価と従来型評価を図にまとめました。後ほどご確認ください。

スライド 4 1

またパフォーマンス評価の分類も、後ほどご確認ください。

スライド 4 2

さらに国内学力テストを通して、すべての子供の学力向上を図っています。2008 年行われたのは、小学校 6 年生、中学校 3 年生、高校 1 年生を対象とした悉皆調査です。教科は、国語、社会、数学、科学、英語です。

スライド 4 3

このような学力テストは、個人の結果を学校に通知するだけでなく、学校レベルでの結果公開を実施しています。

スライド 4 4

小・中・高・大学すべての学校運営に関する規定、学生変動状況、学年・教科別学習に関する報告、国内学力テスト結果、学生補習率、就職率などをインターネットで公開しています。これは、先ほどお話ししました、「学校への通知」というところで公開しています。

スライド 4 5

2012 年の入試改革が発表されました。1. 過度な準備の負担を軽減した入試改革、2. 学校教育だけで対応でき、私教育が不要になるような入試改革、3. 2009 年改訂教育課程を反映し、高校教育の理想像に適合する大学入試改革を行っています。

スライド 46

スライド 46 をご覧ください。改訂後には、たとえば国語、数学、英語は A 型、B 型に分けられ、水準別受験が可能になります。そして、総合的な探究能力も評価されます。

スライド 47

2004 年より入学査定官制度を実施しています。これは、大学入試の多様化・特性化を目指しています。学校生活記録簿をはじめ、多様な選抜方式を反映しています。また、大学入学後も大学と高校の教育連帯をはかっています。参考までに言うと、ソウル大学の場合は、65%程度がこのような入学査定官制度で選抜されています。全国で見ると、12%程度が入学査定官制を利用しています。

スライド 48

最後の結論を言います。韓国は PISA2000 年以降、読解や数学リテラシーで上位を維持していますが、科学リテラシーは若干低下傾向が見られました。しかし、PISA2009 では改善が見られました。国際報告書では、効果的な教育政策の実施を通して、上位の中でもさらに順位を上げる可能性のある国として評価されています。韓国の PISA 調査結果に影響を与えたものとして私が考えるのは、教育目標・内容・方法・評価に関する教育政策です。韓国で推進されてきた教育政策は、21 世紀の知識情報化社会と密接に関連しています。そこでは、グローバル化された社会における国際競争力のある人材育成が目指されています。

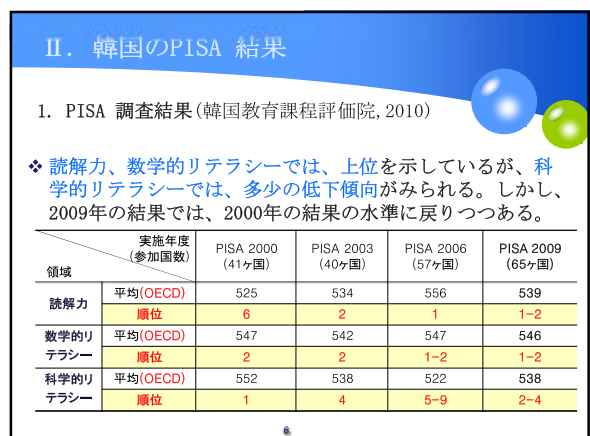
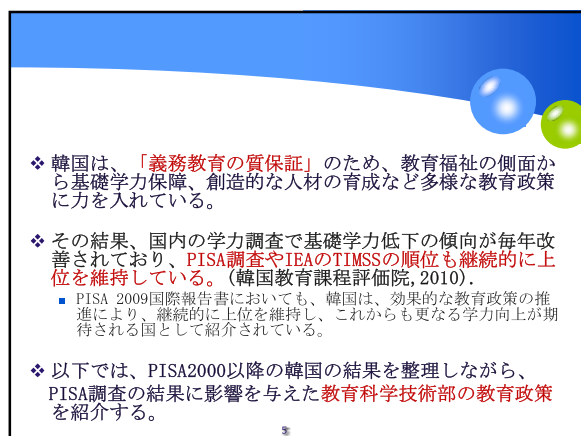
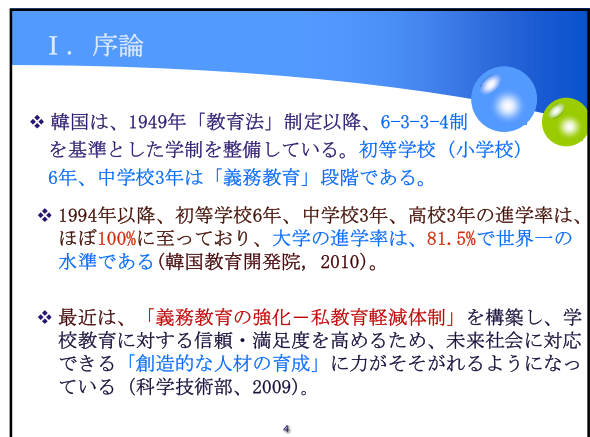
スライド 49

創造性・人格教育は、体系的で専門的な教育を通して行われるべきです。創造的な人格教育の核心は、教育の先進化にあります。世界水準の創造的な人材育成のためには、学校教育の多様化、専門化、特性化が必要です。特に教育方法および結果の報告方式の多様化、専門化、特性化の施行が重要だと思います。教育評価の先進化のためには、パフォーマンス評価、教育能力開発評価、入学査定官制の内実化などの積極的な推進が必要です。韓国は、先進地域国家建設のため、世界水準の創造的な人格教育推進という目標のもと、学校教育の目標、内容、方法、評価の多様化、専門化、特性化を継続的に推進しています。

スライド 50

簡単ですが、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

(記録 羽山裕子 教育方法学講座 D1)



- 読解力：6位(PISA2000)、2位(PISA2003)、1位(PISA2006)で徐々に向上し、PISA2009では、1-2位。
- 数学的リテラシー：PISA2000から継続的に上位。
- 科学的リテラシー：PISA2000では、1位。PISA2006では、5-9位に下落したものの、PISA2009では、2-4位に順位が上がっている。

❖ 参考までに、IEAの国際数学・科学教育動向調査TIMSSの結果

領域	実施年度	TIMSS 1995	TIMSS 1999	TIMSS 2003	TIMSS 2007
数学	平均	581	587	589	597
	順位	3	2	2	2
科学	平均	546	549	558	553
	順位	4	5	3	4

7

2. PISA 2009 領域別分析結果

ア. 読解力領域

1) 分析結果

- ❖ OECD加盟国の中、1-2位を示している。
- ❖ 男女の読解力における平均点の差に関しては、OECD平均(39得点)との差よりも少ない。
- ❖ 下位得点(レベル1未満)の比率は、5.8%：PISA 2000結果と同様。
- ❖ 上位得点(レベル5以上)の比率は、12.9%：PISA 2000 (5.7%)よりレベルが上がっているものの、PISA 2006(21.7%)よりは、多少レベルが下がっている。

8

2) 読解力の上位得点(レベル5以上)の学習背景

- ❖ 放課後「学校プログラム」を通じ、「読書教育」を強化
 - 小学校の99.9%が放課後「学習プログラム」を運営しており、子どもの63.3%が参加している。
 - 「論述教育」及び「読書教育」プログラムなど手厚い支援が行われている。
- ❖ 「学校生活記録部」では、学年別に読書に関する活動状況を記録している。
 - 中学・高校でも「学校生活記録部」で読書活動状況を記録し、生徒の読書習慣を育成している。特に、自主的に読解力を形成する態度の育成を図っている。

9

- 「学校生活記録部」では、教科ごとに読書している分野、関心、理解度などを総合的に評価している。
- ・ 中学校の「読書活動状況」の記入例

表. 読書活動状況

学年	科目 又は 分野	読書 活動 状況
1	国語	(1학기) 김주영이 공부하고 하인제 대한 공감을 일깨워 '완득이'(김래영), '주머니 속의 고래'(이광이)를 읽고 등장인물에게 감정이입을 할 수 있는 편이며, 주인공의 감정과 주변 인물들 간의 갈등구조를 파악하고 대사의 주제를 잘 도출함. 전체적인 스토리를 이해하여 자신의 활동과 비추어 비교・대조하여 감상문을 작성함.
2	사회	(2학기) '이제저리 가계부(배춘경)', '정감당 교수의 만화토 읽는 방법' 등을 읽고 일상생활에서 접하게 되는 경제에 대한 호기심을 충족하고 궁극의 환율이 경제에 어떤 영향을 미치는지 이해하였음. 자신의 경제생활과 연관성을 되돌아보고 경제의 흐름에 대해 호기심이 있음.
3		

10

高校の「読書活動状況」の記入例

학년	과목 또는 영역	독서 활동 상황
1	음악	(2학기) 예술관련 서적을 즐겨 읽음. 특히, 국악에 대해 관심이 많음. '관소리 이야기(최동현)', '우리 소리 수놓아보지 말라(김준호)', '재미있는 국악 김라왕이(이성재)' 등을 통해 우리 음악에 가까이 접근하고 흥미를 느꼈으며 국악의 넓이와 깊이를 파악할 수 있는 계기를 마련함.
2		
3		

11

- ❖ 大学入試でも「論述考査」が実施されており、作文教育に対する関心が高い

- 2012年度からは、「論述成績」を反映して入試を行う大学が、35校もある。(韓国大学教育協議会, 2010)。

【ソウル大学2011年度論述試験例】

5時間で3問
(提示文：A4用紙15枚程度)

- 論題 1. 【提示文 1】 恒星の軌道が正円ではなく楕円を描くのはなぜか、その理由を説明しなさい。【提示文 2】 (カ)で記述された科学探究過程に従って再構成しなさい。
- 論題 2. 【提示文 1】 (ナ)で論じている「科学的な思考の5要素」を【提示文 2】で探し説明してください。

12

イ. 数学リテラシー領域

1) 分析結果

- ❖ OECD加盟国の中、**1-2位**を示している。
- ❖ 男子生徒の数学リテラシー得点>女子生徒の数学リテラシー得点:**女子生徒の成績が向上**しており、男女の平均得点の差が縮まった。
- ❖ 下位得点(レベル1未満)の比率は、8.1%: PISA 2003から継続的に減少。
- ❖ 上位得点(レベル6)の比率は、7.8%: PISA 2006(9.1%)より低い。しかし、中間層の割合が増加している。

13

2) 数学リテラシーの成績が継続して上位を維持している学習背景

- ❖ 2007 改訂教育課程において「推理領域出題科目調整」が行われ2012年から入試で数学科目数が増加
 - 授業時数増加など義務教育での数学教育強化

2011年度入試(2010年)	2012年度入試(2011年)
① - 必修: 数学 I, 数学 II - 選択: 微分と積分, 確率と統計, 数学の中から1分野 ② - 必修: 数学 I	① - <u>数学 I, 数学 II, 積分と統計, 幾何とベクトル</u> ② - <u>数学 I, 微積分と統計基本</u>

14

❖ 高い私教育費の支出

- 2010年、一人当たりの科目別教育費は、英語8万ウォン、数学6万8千ウォン。
- 数学の私教育を受けている比率が、53.6%で一番高い。



15

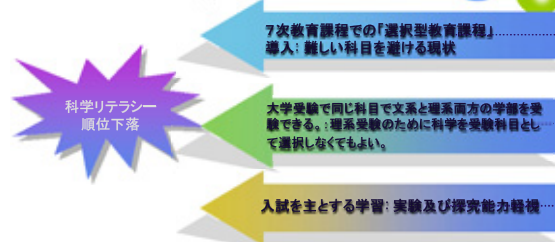
ウ. 科学リテラシー領域

1) 分析結果

- ❖ PISA 2000では、1位
- PISA 2006では、5-9位に下落
- PISA 2009では、**2-4位**
- ❖ 女子生徒の科学リテラシー得点>男子生徒の科学リテラシー得点:**男女の平均得点の差が縮まった。**
- ❖ 下位得点(レベル1未満)の比率は、6.3%: PISA 2006(11.2%)より、**生徒の学力向上がみられる。**
- ❖ 上位得点(レベル6)の比率は、1.1%: PISA 2006とほぼ同じ水準である。

16

2) PISA 2006における科学リテラシー順位下落の背景(ソウル大学, 2007)



17

3) PISA 2009での科学リテラシー順位改善の学習背景

- ❖ 初等・中等の科学教育の「質向上」の教育課程の改革
 - 2012年まで実験に関する評価の比率を50%まで拡大、評価方法の改善、実験探究学習を開発し、普及している。
 - 科学教師の専門性を強化 (科学の実験実習の模擬授業、教員研修など)
 - 教育大学・師範大学の入試では、「科学探究領域」を導入し、加算点を付与している。
 - 学校の実験室の現代化、優秀生徒による「科学クラス」の運営など**教育環境改善**を求めている。

18

❖ 2009 改訂教育課程では、「創造的な体験活動」を新設・運営している。

■創造的な体験活動：教科活動と共に自立的な創造性や人格教育など。

19

Ⅲ. PISA 結果に影響を与えた教育政策

❖ PISA 2000 以降、韓国が継続的に上位の成績を維持しているのは、次のような教育政策推進による。

20

1. 教育目標

❖ 「2009改訂教育課程」で迫及する人間像
(教育科学技術部, 2009).

- 人格形成を基にして個性を発揮、進路を開拓する人
- 基礎能力を基盤にして新しい発想や挑戦をして、創造性を発揮する人
- 文化的リテラシーと多元的価値に対する理解を基に品格を形成する人
- 世界とコミュニケーションする市民として、共同体の発展に寄与できる人

➔ 世界水準の「創造的な人材」育成の迫及

← 教育目標は、自らの学習能力と創造的な問題解決能力を育成、発展させること。

21

❖ 2020 教育政策目標 (韓国教育開発院, 2011a)

22

2. 教育内容

教育課程の先進化

23

①創造性・人格教育が可能な新しい教育課程運営

2020教育内容推進課題

- キーコンピテンシー中心の教育課程開発及び教科内容の縮小
- 教師の教育課程編成、運営力強化
- 教師養成教育における専攻の再編成及び科目別資格を明記

2009改訂教育課程

- 全体教育内容を約20%減らす
- 学期の履修科目数を減らす: 8科目以内集中履修
- 学年別の教育課程開発: 内容の連携性教科
- 教科別に20%の範囲内で、授業時数の自主的な増加を許容

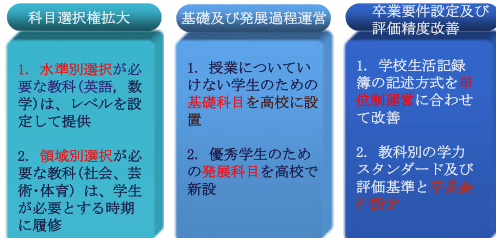
7次教育課程

- 独自の、創造的な人材養成
- 国民共通基本教育課程/ 選択中心教育課程/水準別教育課程
- 必修科目縮小/ 選択科目拡大: 高校の科目選択権付与
- 人文科学, 社会科学, 自然科学, 職業教育およびその他の課程区分の廃止

➔ 学生が学ぶ学習内容を減らし、学習の負担を抑える。キーコンピテンシーを強化する方向に授業方向を改善する。

②教育力を高める事業

- ❖ 多様で特性化された教育を提供し、教育力の改善、学生のレベルに合わせた水準別教育を提供



25

❖ 数学の再構造化案

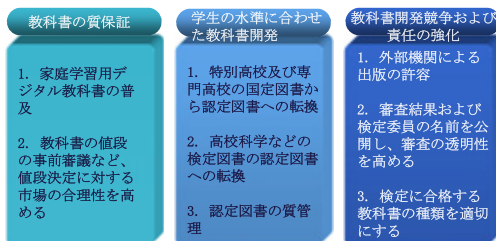
従来の教育課程		再構造化方案		
普通	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 微積分と統計基本, 幾何とベクトル	基本	基礎数学	- 数学的知識が不足している生徒のための科目
		一般	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 微積分Ⅰ, 微積分Ⅱ, 確率と統計, 幾何とベクトル	- 従来の第10学年で履修していた「数学Ⅰ」は、「数学Ⅰ」と「数学Ⅱ」に統合
専門	高級数学	発展	高級数学Ⅰ, 高級数学Ⅱ	- 統計学, 微積分学, 幾何学, 線型代数学など

「数学」を基本/一般/発展科目で分け、「水準別教育」を活性化

26

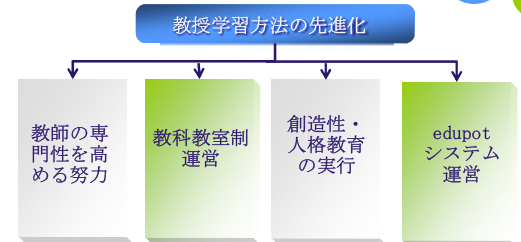
③ 教科書の先進化

- ❖ 創造性、真正性 (authenticity) の高い状況で知識を提供し、学習者中心の「教科書」を普及する(教育科学技術部, 2010b).



27

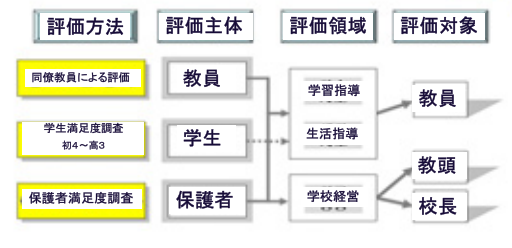
3. 教育方法



28

① 教員の専門性向上

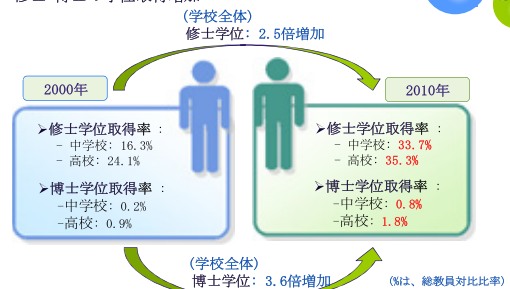
1) 教員能力評価制の全面的実行



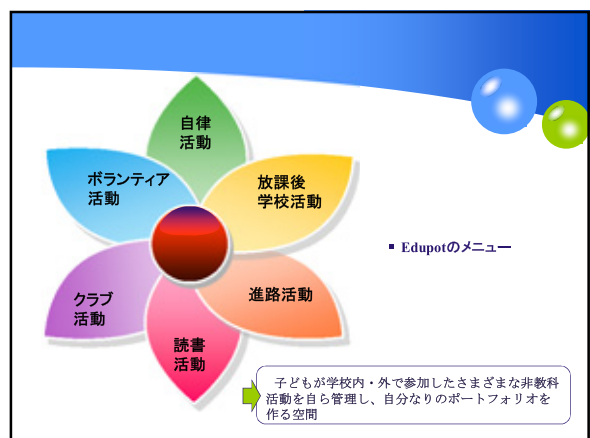
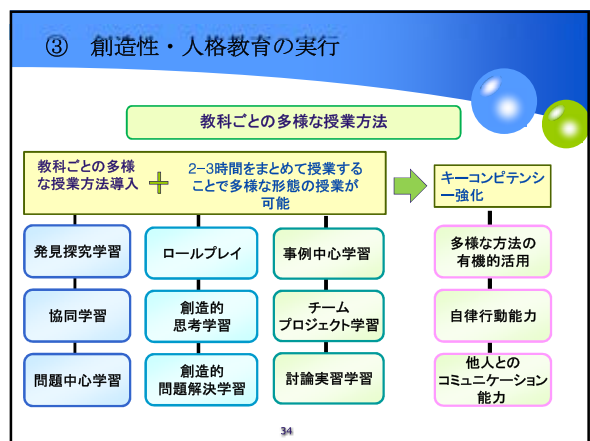
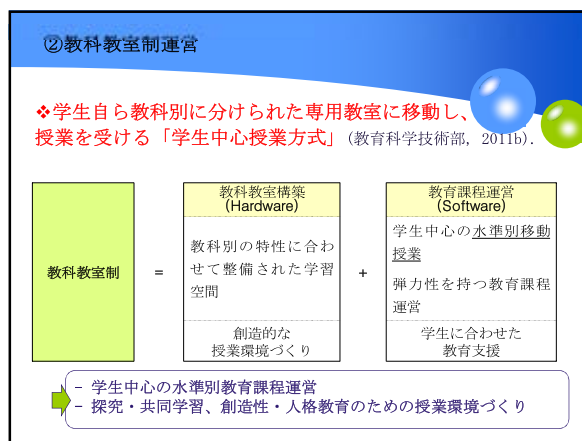
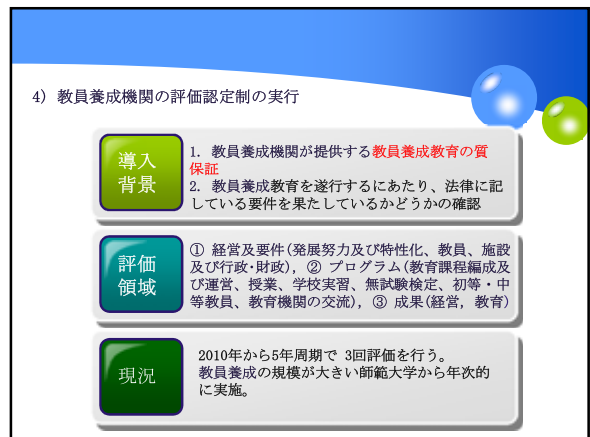
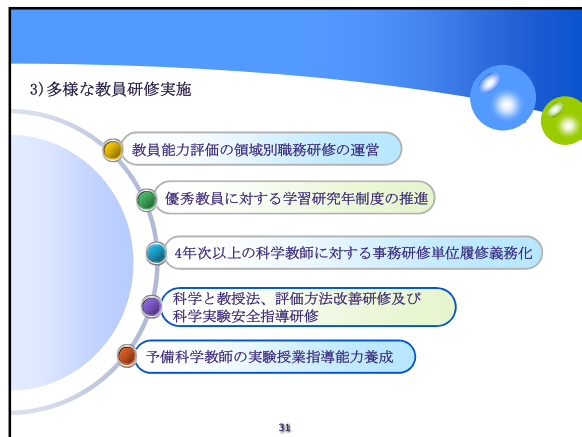
評価の結果は、能力開発支援のため、教員研修などの資料として活用。教員の専門性向上を通じて、義務教育の信頼回復を目指している。

2) 教員の自発的な再教育に対する支援

：修士・博士の学位取得増加



30





①パフォーマンス評価の実施

❖ パフォーマンス評価 (Performance Assessment) の意味: パフォーマンス課題を遂行する過程やその結果を観察し、学生の知識・機能・態度などを評価する専門的な評価方式 (白淳根, 1996)。

パフォーマンス評価は、多肢選択式評価と異なる概念である。学生を評価する際には、教師の専門的な観察や判断が重視される。評価方法の多様化、専門化、特性化を目指す包括的な評価方式である。

❖ パフォーマンス評価の必要性 (白淳根, 2000)

- 知識・情報化時代における、思考の多様性や創造性を高めるため
- 教授・学習の改善のため
- 学生が知識として知っていることとともに、その知識を活用できるかどうかを把握するため
- 教授・学習目標における指導と評価をより具体的に行うため
- 学習者の理解力、解答に至るまでの複雑なスキルなど、数値化して測ることが難しい「高次の思考能力 (higher-order thinking ability)」を評価するため

❖ パフォーマンス評価: 21世紀の知識・情報化時代に必要教育評価

区分	暗記力評価システム	パフォーマンス評価システム
時代の状況	産業化時代 小品種大量生産 工業のような2次産業	情報化時代 多品種小量生産 サービス業のような3次産業
評価目的	選抜・分類・配置 序列化	指導・助言・改善 個性化 (個人の関心・発達を重視する)
評価内容	宣言的 (結果的、内容的) 知識 学習の結果重視 学問的知能の構成要素	手続的 (過程的、方法的) 知識 学習の結果のみならず個々の過程も重視 実践的知能の構成要素
評価方法	選択型試験 標準化検査重視 大規模評価重視 一回的・部分的な評価 客観性・一貫性・公正性を強調	パフォーマンス評価中心 教師による個別評価重視 小規模評価重視 持続的・総合的な評価 専門性・評価ツールの妥当性・適合性を強調
評価時期	学習活動が終了した時点で評価 教授・学習と評価活動の分離	学習活動のすべての過程を評価 教授・学習と評価活動の統合

❖ パフォーマンス評価の分類

パフォーマンス評価の本質を表す度合い	評価方法	備考
非常に高い	現実的な文脈での評価	教科で広く使用されている「パフォーマンス評価」
↑ ↓	実技試験、実験・実習評価、観察評価	
	面接評価、討論評価	
	ポートフォリオ	
	研究報告書、プロジェクト法 論述式 叙述式 短答型 (short answer type)	通常、パフォーマンス評価方法に含まない
非常に低い	多肢選択式 連結型 (線引き型) 完成型 (括弧型) 真偽型 (○、×型)	

(Baek, Sun-Geun 『パフォーマンス評価の原理 (수행평가의 원리)』 教科科学社 (교과과학사) 2000年, p. 68を参考に筆者作成)

② 国内の学力テストの実行

❖ 国内の学力テストを通じて、すべての子どもの学力向上を図る (教育科学技術部, 2011c)

- 1998-2007**
 - 初等学校6学年、中学校3学年、高校1学年対象
 - 該当学年の3-5%の学生を抽出し、実施
- 2008**
 - 初等学校6学年、中学校3学年、高校1学年を対象とした **全国調査**
 - 国語、社会、数学、科学、英語の評価
- 2010**
 - 初等学校6学年、中学校3学年、高校2学年対象とした **全国調査**
 - 基礎学力未達の比率が減少
- 2011(7月予定)**
 - 初6、高2: 国語、数学、英語評価
 - 中3: 国語、社会、数学、科学、英語評価
 - 学生成績の通知: 4レベル+ 学力レベルの詳細情報
 - 学校への通知: 3レベル+ 昨年と比較してどれだけ向上したか

- ❖ 国内学力テストの結果は、
「学校への通知」を通じて公開

学力水準	児童・制度の個別レベル (4レベル)	公式発表レベル (3レベル)
80% 以上	優秀学力	普通学力以上
80%未満 ～ 50%以上	普通学力	
50%未満 ～ 20%以上	基礎学力	基礎学力程度
20%未満	基礎学力未満	基礎学力未満

学校情報公開制度を通じて学校全般の重要情報を客観的に、透明性を持って公開し、国民の知る権利を保障。なお、学校教育の実態を正確に把握し、教育の質保証を伴う。

43

- ❖ 学校情報公開制度では、次の内容を公開する。

- すべての初等・中等・高校、大学は、学校運営に対する規定、学生変動状況、学年・教科別学習に対する項目、国内学力テスト結果、学生補充率、就職率などをインターネットに公開する。
- 初等・中等・高校：学校ごとの学力資料(基礎学力未達比率、学力向上率、教科別の学力水準など)、校内暴力、学校不適応の現状など
- 大学：新入生の出身高校類型及び特性、家計の状況の把握など

「学校への通知」ホームページ：
<http://www.schoolinfo.go.kr/>

44

ウ. 2014年の入試(案)発表(教育科学技術部、2011d)

1. 過度な試験準備の負担を軽減する入試改革：水準別試験導入及び選択科目の縮小

2. 私教育を受けず、学校における授業のみで準備可能な入試改革：教科中心の出題強化



3. 2009 改訂教育課程を反映し、高校教育の理想像に適應する大学入試改革：水準別試験導入

45

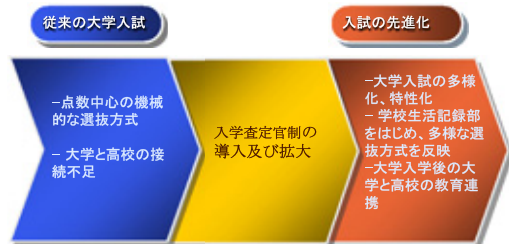
- ❖ 改革状況：

現行		改革	
言語領域		国語	A型* B型*
推理領域	ナ型 力型	数学	A型* B型* B型*
外国語領域		英語	A型* B型*
探究領域 (社会科学・職業の中で1科目を選択)	社会探究領域 (1科目の中から3科目の選択) 科学探究領域 (8科目の中から3科目の選択) 職業探究領域 (17科目の中から3科目の選択)	探究 (社会・科学・職業の中で1科目を選択)	社会 (10科目の中から2科目の選択) 科学 (8科目の中から2科目の選択) 職業 (5科目の中から1科目の選択)
第2外国語/漢文領域 (8科目中1科目の選択)		第2外国語/漢文 (8科目中1科目の選択)	

46

④ 入学査定官制 (Admissions Officer System) の拡大実施(教育科学部、2010)

- ❖ 2010年入学査定官制 (複数の査定官による多段階総合評価)
122大学、41,250名が支援：総募集人員の10.8%




47

IV. 結論

- ❖ 韓国は PISA 2000 以来、読解力と数学リテラシーで上位を維持しているが、科学リテラシーでは、多少の低下傾向が見られる。但し PISA2009では、改善傾向が見られた。PISA2009国際報告書では、韓国は、「効果的な教育政策の推進を通じて、上位のなかでもさらなる学力向上が期待できる国」として評価されている。
- ❖ 韓国が上位の成績を維持できているのは、教育目標、内容、方法、評価といった教育政策によるものである。

→ 韓国で推進されてきた教育政策は21世紀の知識・情報化社会と緊密な関係があり、グローバル化した社会において、国際競争力を向上させるための人材育成を行ってきたことに由来する。

48



❖ 創造的・人格教育は、体系的で専門的な教育を通じて行われる。創造的・人格教育の核心は「**教育の先進化**」にある。

❖ 世界水準の創造的な人材育成のためには、**学校教育の多様化、専門化、特性化が必要**であり、特に評価方法及び結果の報告方式の多様化、専門化、特性化の志向にある。

❖ 教育評価の先進化のためには、**パフォーマンス評価の内実化、教員能力開発評価の内実化、入学査定官制の内実化**などの積極的な推進が必要である。

→ 韓国は先進人類国家建設のため、世界水準の創造的・人格教育という、教育政策の目標を基に**学校教育の目標、内容、方法、評価の多様化、専門化、特性化**を持続的に推進している。

45

＜ 参考文献 ＞

경기도평명교육지원청(2010). 참의, 인성, 체험교육 활성화를 위한 교사 연수(초등) 자료집.
교육인력자원부(2007). 「과학, 탐기 쉽게 가르치기」- 창의적 인재 육성을 위한 초, 중등 과학교육 내실화 계획(08-12).
교육과학기술부(2009). 2009 개정교육과정 총론.
교육과학기술부, 한국교육개발원(2009). 3주기 교원양성기관 평가편람.
교육과학기술부(2010a). 2010년 OECD 교육지도 조사 결과 발표.
교육과학기술부(2010b). 2010년 교과서 선진화 방안 발표.
교육과학기술부(2010c). 2010 입학사정관제 길라잡이.
교육과학기술부(2010d). '10년 국가수준 학업성취도 평가 결과 발표.
교육과학기술부, 한국교육개발원(2010). 고교 교육의 재고 담당자 연수, 연수교재 TM 2010-19-2.
교육과학기술부(2011a). 2011 학교생활기록부 기재 길라잡이.
교육과학기술부(2011b). 창의적 교실수업 구현을 위한 「교과교실제」 전면 확대기본계획.
교육과학기술부(2011c). 2011년 국가수준 학업성취도 평가 기본계획 발표.
교육과학기술부(2011d). 2014학년도 수능시험 개편방안 발표.
교육과학기술부(2011e). 2010년 사교육비조사 결과분석.
미래기획위원회(2009). 창의적 인재 육성을 위한 정책연구.
백준근(1996). 수행평가의 이론과 실제, 서울:대한교육서지학회사.
백준근(2000). 수행평가의 원리, 서울:교육과학사.
백준근(2009). 바른 미래를 위한 교육학적 담론 : 고교수학 평가지 교육이여기, 서울: 교육과학사.
서울대학교 BK21 미래사회 과학교육연구 사업단(2007). PISA 2006 과학성취도 시험의 진단과 처방.
한국교육개발원(2011a). 2020 교육환경 전망과 정책적 대응 방안, position paper, R(2).
한국교육개발원(2011b). 「PISA 2009 결과」 및 시사점, 교육정책네트워크 세계교육정책 인포메이션.
한국교육개발원(2010). OECD 학업성취도 국제비교 연구(PISA 2009) 결과 보고서, 연구보고 PRE 2010-4-2.]
매우넷 홈페이지 <http://www.edupol.go.kr/>
학교 알리미 홈페이지 <http://www.schoolinfo.go.kr/>

50



Thank You!

dr100@snu.ac.kr

51



翻訳担当

- ❖ 趙卿我（京都大学大学院教育学研究科 助教）
- ❖ 森本洋介（京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーションセンター 研究員）
- ❖ 山本はるか（京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座 修士2回生）

52

（翻訳 趙卿我 教育学研究科 助教）



목 차

- I. 서론
- II. 한국의 PISA 주요 결과
- III. PISA 결과에 영향을 준 주요 교육정책들
- IV. 결론

I. 서론

- ❖ 한국은 1949년 교육법 제정 후 6.3.3.4제 단선형 학제를 유지해 오고 있으며, 이 중 초등학교 6년과 중학교 3년은 의무 교육기간에 해당함.
- ❖ 1994년 이래로 초등학교, 중학교, 고등학교의 취학률은 거의 100%에 이르고 있으며, 특히 고등교육에의 진학률은 81.5%로 세계에서 가장 높은 수준임(한국교육개발원, 2010).
- ❖ 최근, “공교육 강화-사교육 경감 선순환 체제”를 구축하여 학교교육에 대한 신뢰를 회복하여 만족도를 높이고 미래 사회를 대비하는 창의인재를 육성하고자 함(교육과학기술부, 2009).

- ❖ 한국은 공교육의 질을 개선시키고, 교육복지 차원에서 기초 학력을 보장하며, 창의 인재 양성을 목표로 수월성 교육을 강화하기 위한 다양한 정책적 노력을 기울이고 있음.
- ❖ 그 결과, 학업성취 측면에서 기초학력미달 비율이 매년 감소하는 추세이며, 학업성취도 국제비교연구에서도 지속적으로 최상위권의 성적을 거두고 있음(한국교육과정평가원, 2010).
 - PISA 2009 국제보고서에서도 한국은 효과적인 교육정책의 추진을 통해 최상위 수준에서도 학력이 더 향상될 수 있다는 가능성을 보여주는 국가 사례로 제시되어 있음.
- ❖ 이하에서는 PISA 2000 이래로 한국의 주요 분석 결과를 정리하고, 이에 영향을 준 교육과학기술부의 주요 교육 정책들을 살펴보고자 함.

II. 한국의 PISA 주요 결과

1. PISA 평가 결과 추이 변화(한국교육과정평가원, 2010)

- ❖ 읽기, 수학에서 최상위 성적을 유지하고 있으며, 과학은 다소 하락하였다가 최근 상승하는 추세임.

영역	시행년도 (참여국 수)	PISA 2000 (41개국)	PISA 2003 (40개국)	PISA 2006 (57개국)	PISA 2009 (65개국)
읽기	평균	525	534	556	539
	순위(OECD)	6	2	1	1-2
수학	평균	547	542	547	546
	순위(OECD)	2	2	1-2	1-2
과학	평균	552	538	522	538
	순위(OECD)	1	4	5-9	2-4

- 읽기 : 6위(PISA 2000), 2위(PISA 2003). 1위(PISA 2006)로 **꾸준히 향상**되어 왔으며, PISA 2009에서도 **1~2위를 유지함**.
- 수학 : PISA 2000 이래로 **꾸준하게 최상위 수준을 유지함**.
- 과학 : PISA2000에서는 최상위권이었음. PISA 2006에서 5~9위로 하락하였으나, PISA 2009에서는 2~4위로 다시 향상됨.

❖ 참고로, TIMSS 순위 변화는 다음과 같음.

영역	시행년도	TIMSS 1995	TIMSS 1999	TIMSS 2003	TIMSS 2007
수학	평균	581	587	589	597
	순위	3	2	2	2
과학	평균	546	549	558	553
	순위	4	5	3	4

2. PISA 2009 영역별 주요 분석 결과

가. 읽기 영역

1) 주요 분석 결과

- ❖ OECD 국가 중 **1~2위를 차지함**.
- ❖ **여학생의 읽기점수 > 남학생의 읽기점수** : OECD 평균 차이 (39점)에 비해 적은 편임.
- ❖ 하위수준(1수준 이하) 학생 비율은 5.8% : PISA 2000과 비교할 때 차이가 없었음.
- ❖ 최상위권(5수준 이상) 학생 비율은 12.9% : PISA 2000 (5.7%) 보다는 상승하였으나, PISA 2006(21.7%)에 비해 다소 하락한 것으로 나타났다.

2) 최상위권 읽기 성취도의 배경

- ❖ **학교내 방과후학교 프로그램을 통하여 독서교육 강화**
 - 전체 학교의 **99.9%가 방과후학교**를 운영하고 있으며, 전체 학생의 **63.3%가 참여하고 있음**.
 - 다양한 특기적성프로그램이 운영되고 있으며, 이 중 **논술교육 및 독서지도 관련 프로그램 등이 심층적으로 실시되고 있음**.
- ❖ **학교생활기록부에 학년별로 독서에 관한 내용을 기록함으로써 독서교육 강화**
 - 중·고등학교에서는 학교생활기록부 항목으로 학년별 독서활동상황을 기록하도록 함으로써, **학생들의 독서 습관을 형성하고 자기주도적 읽기 능력을 강화하고 있음**.

- 학교생활기록부에 교과 담당교사가 교과별로 독서 분야, 독서에 관한 흥미, 이해 수준 등을 종합 서술형으로 기술함.
- **중학교 기재 예시**

표. 독서활동상황

학년	과목 또는 영역	독서 활동 상황
1	국어 사회	(1학기) 김주영씨 공부하고 타인에 대한 공감을 위하여 '완득이'(김려령), '주머니 속의 고래'(이강아)'를 읽고 등장인물에게 감정이입을 할 수 있는 편이며, 장편물의 결말과 주연 인물들 간의 갈등구조를 파악하고 책의 주제를 잘 도출함. 전체적인 스토리를 이해하여 자신의 생활과 비추어 비교·대조하여 감상문을 작성함. (2학기) '비밀저장 기체류(배춘경)', '정감당 교수의 만화토 읽는 방법' 달동 정제학(정감당)을 읽고 일상생활에서 접어지는 정제학에 대한 호기심을 충족하고 궁리화 환율이 정제학 어떤 영향을 미치는지 이해하였음. 자신의 정제학과 완득이를 비교해보고 정제학 흐름에 대해 호기심이 일어남.
2		
3		

■ 고등학교 기재 예시

학년	과목 또는 영역	독서 활동 상황
1	음악	(2학기) 예술관련 서적을 즐겨 읽음. 특히, 국악에 대해 관심이 많음. '관소리 이야기(최동현)', '우리 소리 수놓아보지 말라(김준호)', '재미있는 국악 김라왕이(이정재)' 등을 통해 우리 음악에 가까이 접근하고 흥미를 느꼈으며 국악의 넓이와 깊이를 파악할 수 있는 계기를 마련함.
2		
3		

- ❖ **주요 대학의 입시전형에서 논술고사를 실시함에 따라, 글쓰기에 대한 관심이 높음.**
- 2012학년도에 수시에서 논술 성적을 반영하는 대학은 35개교이며, 정시모집의 경우 논술고사 성적을 반영하는 대학은 서울대를 포함한 6개교임(한국대학교육협의회, 2010).

【서울대학교 2011학년도 정시논술시험 예시】

5시간 동안 3분량
(제시문: A4용지 15장분량)

논제 1. 【제시문 2】는 행성의 운행 법칙이 밝혀지는 과정을 보여준다. 행성의 운행 궤도가 원이 아니라 타원이라는 사실이 입증되는 과정을 【제시문 1】(가)에서 기술된 '과학 탐구 과정'에 따라 재구성해 보시오.

논제 2. 【제시문 1】(나)에서 기술된 '과학적 사고의 다섯 요소'를 【제시문 2】에서 찾아 설명하시오.

나. 수학 영역

1) 주요 분석 결과

- ❖ OECD 국가 중 1-2위를 차지함.
- ❖ 남학생의 수학 점수 > 여학생의 수학점수 : 여학생의 향상이 두드러지면서 **성별 차이가 점차 감소**하는 편임.
- ❖ 하위수준(1수준 이하)의 비율이 8.1%(3위) : PISA 2003 이래로 지속적으로 감소함.
- ❖ 최상위권(6수준)의 비율은 7.8%(5위) : PISA 2006(9.1%)에 비해 다소 낮아져서 전반적으로 중간수준의 학생이 늘어난 것으로 나타남.

13

2) 최상위권 수학 성취도의 배경

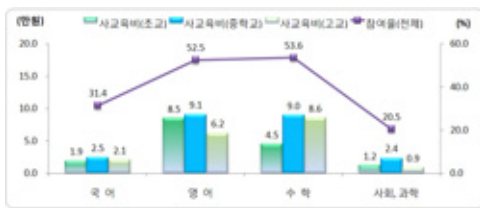
- ❖ 2007 교육과정 개정에 따른 '수리영역 출제과목 조정'으로 2012학년도 수능에서 **수학출제과목 수가 증가**함
- 수업 시수 증가 등 공교육에서의 수학 교육이 강화됨.

2011학년도 수능(2010년)	2012학년도 수능(2011년)
<ul style="list-style-type: none"> 가형 <ul style="list-style-type: none"> - 필수 : 수학 I, 수학 II - 선택 : 미분과 적분, 확률과 통계, 이산수학 중 1개 나형 <ul style="list-style-type: none"> - 필수 : 수학 I 	<ul style="list-style-type: none"> 가형 <ul style="list-style-type: none"> - 수학 I, 수학 II, 적분과 통계, 기하와 벡터 나형 <ul style="list-style-type: none"> - 수학 I, 미적분과 통계 기본

14

❖ 상대적으로 높은 사교육비를 지출함.

- 2010년 학생 1인당 과목별 월평균 사교육비는 영어(8만원)와 수학(6만 8천원)이 상대적으로 높음. 사교육 참여율은 수학이 53.6%로 가장 높고, 영어(52.5%), 예체능(33.3%) 순임



15

다. 과학 영역

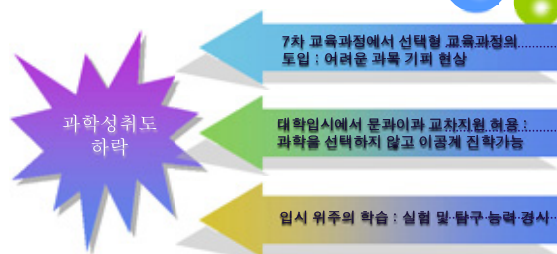
1) 주요 분석 결과

- ❖ PISA 2000에서는 최상위권이었음. PISA 2006에서 5-9위로 하락하였으나, **PISA 2009에서는 2-4위로 다시 향상**됨.
- ❖ 여학생 과학점수 > 남학생 과학점수 : 성별 차이는 점점 감소
- ❖ 하위수준(1수준 이하) 비율 6.3% : PISA 2006(11.2%)에 비해 크게 줄어들어 **하위수준 학생들의 학력 향상이 두드러지게 나타났음**.
- ❖ 최상위권(6수준)의 학생 비율 1.1% : PISA 2006과 유사한 수준이었음.

16

2) PISA 2006에서 과학 성취도 **하락**의 배경

(서울대학교, 2007)



17

3) PISA 2009에서 과학 성취도 **향상**의 배경

❖ 초·중등 과학교육 내실화 계획을 추진함.

- 2012년까지 실험평가 비중을 50%까지 확대하는 등 과학 수업, 평가 방법을 개선하고 실험 탐구학습 지원자료를 개발 보급하며, 새로운 교수법을 개발함.
- 교사임용시험에서 과학실험실습, 수업시연을 강화하고 과학교사 상시 연수체제를 도입하는 등 과학 **교사의 전문성을 제고**함.
 - 교육대학·사범대학 신입생 전형에서 수리 '가'형 및 과학탐구영역 지정과 가산점 부여 권장.
- 실험실을 현대화하는 등 **교육 여건 개선**을 추진하고, 학교 단위 우수 학생 심화 과학반을 운영함으로써 과학과 수월성 교육을 강화함.

18

❖ 2009 개정 교육과정에서 창의적 체험활동을 신설·운영함.

■ 창의적 체험활동 : 교과활동과 더불어 창의성과 인성함양을 위한 자율적 핵심활동

자유행동 봉사활동 진로활동 동아리활동

Ⅲ. PISA 결과에 영향을 준 주요 교육 정책들

❖ 한국이 PISA 2000 이후로 지속적으로 최상위권의 성적을 유지하는 데에는, 다음과 같은 4가지 요소에 대한 국가주도의 강력한 교육정책 추진이 영향을 주고 있음.

선진인류국가 건설

교육목표 교육평가 교육내용 교육방법

20

1. 교육 목표

❖ **홍익인간(弘益人間)** : 널리 인간을 이롭게 함

❖ '2009년 개정 교육과정'에서 추구하는 인간상(교육과학기술부, 2009).

- 전인적 성장의 기반 위에 개성의 발달과 진로를 개척하는 사람
- 기초 능력의 바탕 위에 새로운 발상과 도전으로 창의성을 발휘하는 사람
- 문화적 소양과 다원적 가치에 대한 이해를 바탕으로 품격 있는 삶을 영위하는 사람
- 세계와 소통하는 시민으로서 배려와 나눔의 정신으로 공동체 발전에 참여하는 사람

→ **세계수준의 창의적 인재 육성을 추구하고 있음.**

← 자기주도적 학습능력과 창의적인 문제해결력을 신장, 발전시키는 것이 매우 중요한 교육 목표가 됨.

21

❖ 2020 교육정책 목표(한국교육개발원, 2011a)

저출산, 고령화, 다문화 사회

양극화와 교육 불평등

지식기반 산업 비중 증대

한국교육에 대한 글로벌 수요 증대

-창의성, 핵심역량, 글로벌 경쟁력을 갖춘 인재 양성
-양적 성장에서 질적 발전으로 전환
-평생학습체제 강화
-한국교육의 글로벌 리더십 강화

2. 교육내용

교육과정 선진화

창의·인성교육이 가능한 새로운 교육과정 운영 교육력 제고사업 교과서 선진화

23

가. 창의·인성교육이 가능한 새로운 교육과정 운영

2020교육내용 추진과제

- 핵심역량 중심의 교육과정 개발 및 교과 내용 축소
- 교사의 교육과정 편성, 운영 역량 강화
- 교사양성교육에서의 전공체제 재편 및 자격증 표시 과목 개선

2009개정교육과정

- 전체 교육내용을 약 20% 감축
- 학기당 이수과목수 축소 : 8과목 이내 집중이수
- 학년군 단위의 교육과정 개발 : 내용의 연계성 강화
- 교과(군) 별 20% 범위 내 수업시수 자율 증감 허용

7차 교육과정

- 독창적, 창의적 인간 양성 목적
- 국민공통기본 교육과정/ 선택중심교육과정/수준별교육과정
- 필수과목 축소/ 선택과목 확대 : 고교 학생 과목 선택권 부여
- 인문사회, 자연, 직업 및 기타의 과정 구분 폐지

→ 학생들이 배우는 학습내용을 줄여 학습부담은 낮추고, 핵심역량을 강화하는 방향으로 수업 방법을 개선함.

나. 일반계 고교 교육력 제고

- ❖ 다양하고 특성화된 교육을 제공하여 교육력을 획기적으로 개선하고 학생의 능력을 고려한 수준별 맞춤형 교육 제공



❖ 수학 과목의 재구조화 방안

현행 교육과정		재구조화 방안	
보통	수학, 수학의 활용, 수학 I, 수학 II, 미적분과 통계 기본, 적분과 통계, 기하와 벡터	기본	기초수학 - 수학적 지식이 부족한 학생들을 위한 과목
		일반	수학 I, 수학 II, 미적분 I, 미적분 II, 확률과 통계, 기하와 벡터 - 기존 10학년 '수학'은 '수학 I'과 '수학 II'에 통합됨
전문	고급수학	심화	고급수학 I, 고급수학 II - 통계학, 미적분학, 기하학, 선형대수학 등

→ 기본/일반/심화과목의 형태로 재구조화함으로써 수준별 교육이 활성화되도록 함.

다. 교과서 선진화

- ❖ 창의적인 산 지식을 제공하고, 학습자 친화적인 미래형 교과서를 보급하고자 함(교육과학기술부, 2010b).



3. 교육방법



28

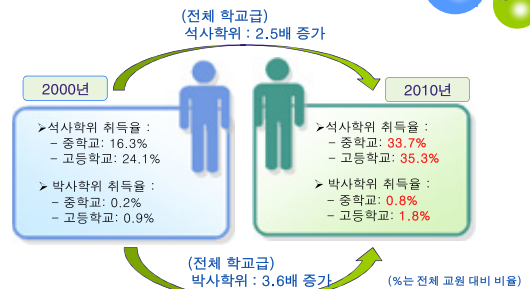
가. 교원의 전문성 제고 노력

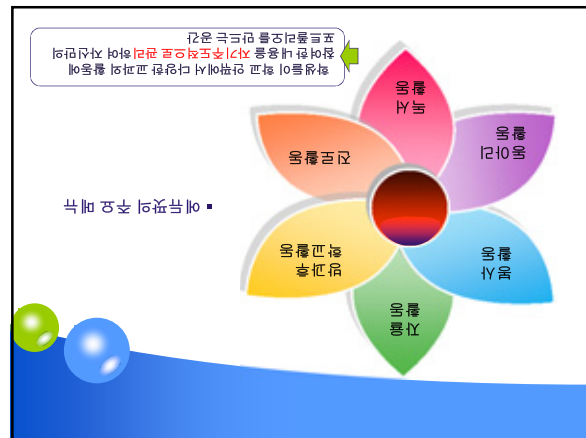
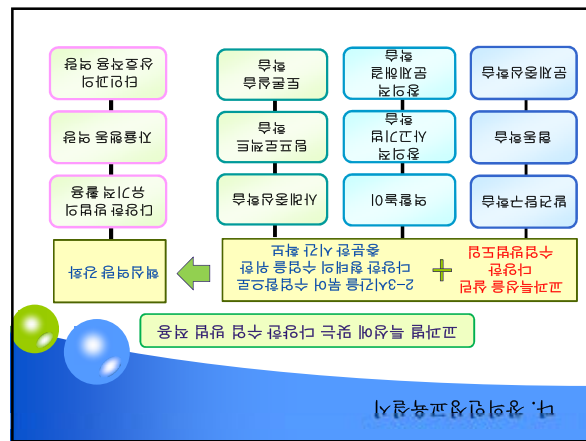
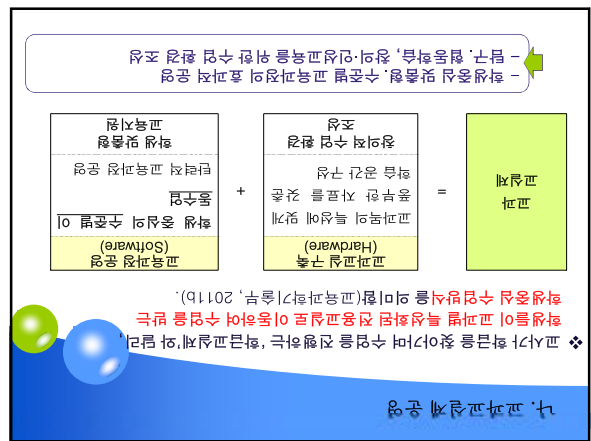
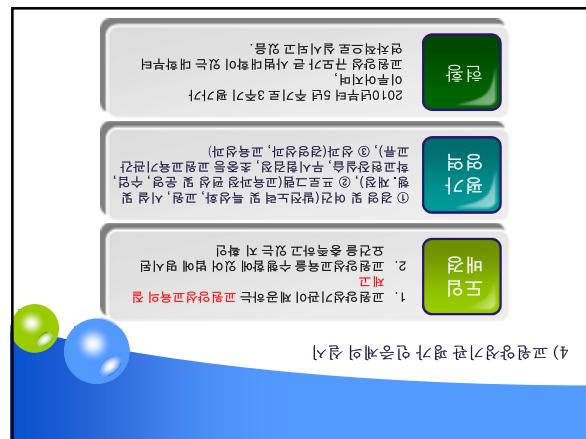
1) 교원능력평가제의 전면적 시행



→ 평가 결과는 능력개발 지원을 위한 맞춤형 연수 등의 자료로 활용되며, 교원 전문성 신장을 통한 공교육의 신뢰를 회복하고자 함.

2) 교원의 자발적 재교육 노력: 석박사 학위 취득율 증가





4. 교육평가



37

가. 수행평가의 확대 실시

❖ 수행평가(Performance Assessment)의 의미:

학생이 학습과제를 수행하는 과정이나 그 결과를 보고 교사가 그 학생의 지식, 기능, 태도 등에 대해 전문적으로 판단하는 평가 방식(백순근, 1996).

선택형 평가와 대비되는 개념으로, 학생을 평가함에 있어서 담당 교사의 전문적인 관찰과 판단을 중시함과 동시에 평가 방법의 다양화, 전문화, 특성화를 지향하는 포괄적인 의미

38

❖ 수행평가의 필요성(백순근, 2000).

- 지식·정보화 시대를 맞이하여 사고의 다양성과 창의성을 신장시키기 위해서 필요함.
- 교수·학습 활동의 과정과 결과에 대한 정보를 수집하여 교수·학습 활동을 개선하기 위해 필요함.
- 학생이 인지적으로 아는 것뿐만 아니라, 아는 것을 실제로 적용할 수 있는지 여부를 파악하기 위해서 필요함.
- 학습자 개인에게 의미 있는 학습활동이 이루어지도록 하기 위해서 필요함.
- 교수·학습 목표나 내용과 평가 목표나 내용을 좀더 직접적으로 관련시키기 위해서 필요함.
(※지도, 조언, 충고를 목적으로 하는 충고형 평가)
- 획일적인 표준화 검사를 적용하기 어려운 상황, 예컨대 다양한 지역과 다양한 문화가 공존하는 사회 속에서 다양성 그 자체를 인정하면서도 동시에 타당한 평가를 하기 위해서 필요함.

39

❖ 수행평가: 21세기 지식·정보화 시대를 위한 교육평가

구 분	암기력 평가체제	수행능력 평가체제
시대적 상황	산업화 시대 소품종 대량 생산 공업과 같은 2차 산업 위주	지식·정보화 시대 다품종 소량 생산 서비스업과 같은 3차 산업 위주
평가목적	선발, 분류, 배치 한 줄 세우기	개선, 발전을 위한 지도, 조언, 충고 여러 줄 세우기
평가내용	선언적(결과적, 내용적) 지식 학습의 결과 중시 학문적 지능의 구성 요소	절차적(과정적, 방법적) 지식 학습의 결과 및 과정 중시 실천적 지능의 구성 요소
평가방법	선택형평가 위주	수행평가 위주
평가시기	교수, 학습활동이 종료되는 시점 교수, 학습과 평가활동 분리	교수, 학습활동의 모든 과정 교수, 학습과 평가활동 통합

40

❖ 수행평가의 여러 가지 방법

수행평가 본질의 구현정도	평가 방법	비 고
매우 높음 ↑ ↓ 매우 낮음	실제 상황에서의 평가	널리 사용되고 있는 수행평가방법들임
	실기시험, 실험, 실습법, 관찰법	
	면접법, 구두시험, 토론법	
	자기평가 및 동료평가 보고서법	
	포트폴리오	
	연구보고서, 프로젝트법	
	논술형	보통 수행평가방법에 포함시키지 않음
	서술형	
	단답형	
	완성형(괄호형)	
	선답형	
	연결형(줄긋기형)	
	진위형(○×형)	

41

나. 국가수준의 학업성취도 평가 실시

❖ 국가차원에서 학생 개개인의 학업성취도를 종합적으로 진단하여 모든 학생들이 기초학습능력을 갖추 수 있도록 함(교육과학기술부, 2011c)

1998-2007	<ul style="list-style-type: none"> 초등학교 6학년, 중학교 3학년, 고등학교 1학년 해당학년의 3~5%의 학생을 표집하여 실시
2008	<ul style="list-style-type: none"> 초등학교 6학년, 중학교 3학년, 고등학교 1학년의 해당학년 전수를 대상으로 실시 국어, 사회, 수학, 과학, 영어 평가
2010	<ul style="list-style-type: none"> 초등학교 6학년, 중학교 3학년, 고등학교 2학년의 해당학년 전수를 대상으로 실시 모든 학교급에서 기초학력미달 비율 감소 추세
2011(7월 예정)	<ul style="list-style-type: none"> 초6, 고2: 국어, 수학, 영어 평가 중3: 국어, 사회, 수학, 과학, 영어 평가 학생성적통지: 4등급 성취수준 + 위치정보, 교과영역별 상세정보 학교알리미: 3등급 성취수준 + 전년대비 향상도

❖ 학업성취도평가 결과는 '학교 알리미'를 통해 공개

성취수준	학생 개인별 통지등급 (4등급)	공식 발표 등급 (3등급)
80% 이상	우수학력	보통학력이상
80% 미만 ~ 50% 이상	보통학력	
50% 미만 ~ 20% 이상	기초학력	기초학력
20% 미만	기초학력 미달	기초학력 미달

학교정보공시제도를 통하여 학교 전반의 주요정보를 객관적이고 투명하게 공개하여, 국민의 알 권리를 보장하는 한편, 학교 교육실태를 정확하게 파악하여 교육의 질을 높이고, 교육의 책무성 확보하고자 함.

43

❖ 학교정보공시제도에서는 다음 내용을 공시함.

- 모든 초·중·고교와 대학은 학교운영에 관한 규정, 학생변동 상황, 학년·교과별 학습에 관한 사항, 국가수준 학업성취도 평가결과, 학생 충원율, 취업률 등의 정보를 인터넷에 공시해야 함.
- 초·중·고: 학교별 학력자료(기초학력 미달학생 비율, 전년 대비 성취수준 향상도, 교과목별 학생의 성취수준), 학교폭력 현황, 학교 부적응자 현황 등
- 대학: 신입생의 출신 고교 유형 및 특성, 소외계층 비율 등

'학교 알리미' 홈페이지 :
<http://www.schoolinfo.go.kr/>

44

다. 2014년 수능개편(안) 발표(교육과학기술부, 2011d)

1. 과도한 시험 준비 부담 없는
수능으로 개편 : 수준별 시험 도입
및 선택과목 수 축소



2. 사교육 없이
학교 수업을 통해
준비할 수 있는
수능으로 개편 :
교과중심 출제 강화

3. 2009 개정교육과정
취지 반영으로
고교교육 정상화에
기여하는 수능으로
개편:수준별 시험 도입

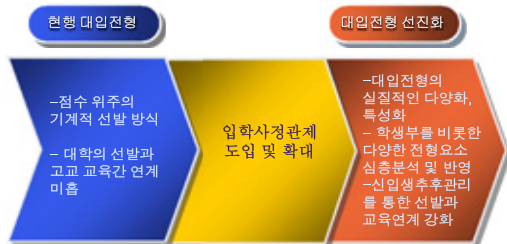
❖ 주요 개편 사항:

현행		개편	
언어영역		국어	A형* B형*
수리영역	나형	수학	A형*
	가형		B형*
외국어영역		영어	A형* B형*
탐구영역 (사회·과학·직업 중 택 1하여 응시)	사회탐구영역 (11과목 중 3과목 선택)	탐구 (사회·과학·직업 중 택 1하여 응시)	사회 (10과목 중 2과목 선택)
	과학탐구영역 (8과목 중 3과목 선택)		과학 (8과목 중 2과목 선택)
	직업탐구영역 (17과목 중 3과목 선택)		직업 (5과목 중 1과목 선택)
	제2외국어/한문영역 (8과목 중 1과목 선택)		제2외국어/한문 (8과목 중 1과목 선택)

46

라. 입학사정관전형 확대 실시(교육과학기술부, 2010c)

- ❖ 2010년 입학사정관제 전형(다수에 의한 다단계 종합평가에 의한 전형)
이 122개 대학 41,250명으로 확대: 총 모집인원의 10.8%



47


IV. 결론

- ❖ 한국은 PISA 2000 이래 읽기, 수학 영역에서 OECD 국가 중 최상위권의 성적을, 과학에서는 상위권의 성적을 유지하고 있으며, PISA 2009 국제보고서에서도 효과적인 교육정책의 추진을 통해 최상위 수준에서도 학력이 더 향상될 수 있다는 가능성을 보여주는 국가 사례로 제시되어 있음.

- ❖ 여기에서는 한국이 최상위권의 성적을 거둘 수 있는 데 영향을 준 주요 교육정책을 교육목표, 교육내용, 교육방법, 교육평가의 4가지 요소로 나누어 정리하였음.

→ 한국에서 추진하여 온 주요 교육정책들은 21세기 지식·정보화 시대, 세계화 시대에 국가 경쟁력의 핵심인 세계수준의 창의적 인재육성과 긴밀한 관계가 있음.

48



- ❖ 창의적 인재는 체계적이고 전문적인 교육과 훈련을 통해 양성되며, 창의적 인재 육성의 핵심은 “**교육의 선진화**”에 있음.
- ❖ 세계수준의 창의적 인재 육성을 위해서, **학교 교육의 다양화, 전문화, 특성화**가 가능하도록 해야 하며, 이를 위해서 특히, 평가 방법 및 결과 보고 방식의 다양화, 전문화, 특성화를 지향하고 있음.
- ❖ 교육평가의 선진화를 위해서 ① 수행평가의 내실화, ② 교원능력개발 평가의 내실화, ③ 입학사정관제의 내실화 등을 적극적으로 추진하고 있음.

→ 선진인류국가 건설을 위해서 세계수준의 창의적 인재 육성이라는 교육 정책의 목표 하에 **학교 교육의 목표, 내용, 방법, 평가의 다양화, 전문화, 특성화**를 지속적으로 추진하고 있음.

49

< 주요 참고 문헌 >

경기도평명교육지원청(2010). 창의, 인성, 체험교육 활성화를 위한 교사 연수(초등) 자료집.
 교육과학기술부(2007). 「과학, 탐기 쉽게 가르치기」- 창의적 인재 육성을 위한 초, 중등 과학교육 내용체계(08-112).
 교육과학기술부(2009). 2009 개정교육과정 총론.
 교육과학기술부, 한국교육개발원(2009). 3주기 교원양성기관 평가편람.
 교육과학기술부(2010a). 2010년 OECD 교육지표 조사 결과 발표.
 교육과학기술부(2010b). 2010년 교과서 선진화 방안 발표.
 교육과학기술부(2010c). 2010 입학사정관제 길라잡이.
 교육과학기술부(2010d). '10년 국가수준 학업성취도 평가 결과 발표.
 교육과학기술부, 한국교육개발원(2010). 고교 교육비 책고 담당자 연수, 연수교재 TM 2010-19-2.
 교육과학기술부(2011a). 2011 학교생활기록부 기재 길라잡이.
 교육과학기술부(2011b). 창의적 교실수업 구현을 위한 「교과교실제」 전면 확대기본계획.
 교육과학기술부(2011c). 2011년 국가수준 학업성취도 평가 기본계획 발표.
 교육과학기술부(2011d). 2014학년도 수능시험 개편방안 발표.
 교육과학기술부(2011e). 2010년 사교육비조사 결과분석.
 미래기획위원회(2009). 창의적 인재 육성을 위한 정책연구.
 백준근(1996). 수행평가의 이론과 실제, 서울:대한교과서주식회사.
 백준근(2000). 수행평가의 원리, 서울:교육과학사.
 백준근(2009). 밝은 미래를 위한 교육혁신 담론 : 自 교수적 평가자 교육이하기, 서울: 교육과학사.
 서울대학교 BK21 미래사회 과학교육연구 사업단(2007). PISA 2006 과학성취도 시험의 진단과 처방.
 한국교육개발원(2011a). 2020 교육환경 전망과 정책적 대응 방안, position paper, R(2).
 한국교육개발원(2011b). 「PISA 2009 결과」 및 시사점, 교육정책네트워크 세계교육정책 인포메이션.
 한국교육개발원(2010). OECD 학업성취도 국제비교 연구(PISA 2009) 결과 보고서, 연구보고 PRE 2010-4-2.]
 에듀넷 홈페이지 <http://www.edunet.go.kr/>
 학교알리미 홈페이지 <http://www.schoolinfo.go.kr/>

50



Thank You!

dr100@snu.ac.kr

기